

2020 年度の鉄鋼需要見通し

2019 年 12 月 19 日
一般社団法人 日本鉄鋼連盟

日本経済／2020 年度の日本経済は減速する見通し

2019 年度 外需を中心に減速している。米中貿易摩擦の影響により世界経済が減速するなか、世界の貿易量は減少し、日本からの輸出も前年割れで推移している。内需は、公共・民間投資が総じて堅調に推移しているが、内外経済に先行き不透明感が強まっていることや、企業業績の悪化から、設備投資計画を見直す動きも見られる。

2020 年度 内需を中心に減速する見通しである。消費は消費増税後の反動減となるほか、設備投資計画の見直しも懸念される。他方で、政府の景気刺激策としての公共投資は自然災害からの復旧に加え、国土強靱化政策などから高水準で推移する見通しである。IMF によると、2020 年（暦年）の世界経済は下振れリスクを抱えつつも前年比では回復するとみており、輸出は増加が予想される。

鉄鋼需給／2020 年度の鉄鋼内需は前年度を下回る見通し

2019 年度

鉄鋼内需 前年を下回る見通しである。建設業、製造業ともに前年割れを見込む。建設業では、土木は災害復旧工事や国土強靱化政策による需要増が見込まれる一方、建築は住宅、非住宅ともに前年割れとなる見通し。製造業では、主要業種でいずれも前年割れと予想する。造船が依然として船腹過剰感から前年割れが続き、自動車は消費増税により需要減少。産業機械は、内需は省力化投資が堅調な一方、中国向けなど輸出の急減もあり需要減少を見込む。

鉄鋼外需 世界経済が鈍化するなか、日本の鉄鋼輸出は前年度を下回る見込み。

粗鋼生産 2019 年度の粗鋼生産は前年割れとなる見込みである。

2020 年度

鉄鋼内需 前年同様の状況が続くとみられる。建設業、製造業ともに前年割れの見通し。建設業では、土木が前年同様、災害からの復興に加え国土強靱化政策など老朽化した社会インフラの更新などを背景に需要増加が続くとみられる。建築では非住宅が都市再開発プロジェクトの継続などもあって増加が見込まれるも、住宅は消費増税による反動減が予想され、建築全体では前年割れの見通し。製造業は、造船では船腹過剰が解消されないなか受注環境の厳しさが続き、需要は低水準横ばいで推移、自動車は消費増税の影響などから前年度比減少と予想する。産業機械は、半導体製造装置などで一部回復が予想されるも、全体を押し上げるまでには至らず前年度マイナスの見通し。

鉄鋼外需 前年比では回復する見通し。前述の通り、IMF は 2020 年の世界経済が回復すると予測していることに加え、世界鉄鋼協会の短期需要見通しにおいても、先行き不透明感が強いなかでも、中国を除く新興国・途上国の需要増加により、同年の世界鉄鋼需要は前年比+1.7%の増加が見込まれていることから、日本の鉄鋼輸出は 2019 年度を上回ると見られる。なお、鉄鋼輸入は、2019 年度並みの水準を想定している。

粗鋼生産 2020 年度の粗鋼生産は前年度比で横ばいとなる見通しである。

リ ス ク 米中貿易摩擦や中国経済の動向に引き続き注視していく必要がある。

